

だれでもなんでも展に寄せて

第32回

「だれでもなんでも展」

実行委員会委員長

吉岡 勇

今年で32回目を迎える「だれでもなんでも展」は、松林分館が開館した翌年の昭和55年10月24・25日に第1回「みんなのなんでも展」（昭和56年以後は、だれでもなんでも展）として開催され、単なる利用者の発表会とは違い、地域の文化的な営みを掘り起こす作業と自分達の行っているサークル活動の中味を伝え合うという相互の関係から、活動が地域に広がり、地域の目に触れにくい活動を引き上げ、横へのつながりに期待をこめて実施された。

今年もサークル活動の方々（市民参加の方々）（演説・展示・模擬店）と共に実行委員会を開催し、発足時の趣旨を継承して「だれでもなんでも展」の開催に向けて準備中です。

私が同展の中で特に感じた場面は、部屋の設営時に大工さん顔負けの腕前を存分に発揮し会場作りをされた方の勇

舞台づくりに苦労される姿、なれない模擬店手伝いの場面が脳裏に浮かぶ。

作品の出版に関しては、大分古くなるが分館主催講座の作品、講座から誕生したサークル活動の作品、また、個人出展では、日々コツコツと制作した趣味の玄昌石に描いた絵画・篆刻（てんこく）作品を出展させて頂いた。趣味の作品出展が切っ掛けとなり松林分館で篆刻がサークル登録され、改めて同展の趣旨の御蔭で実現をしたと思う。

©PR 来る10月20・21日に開催される「だれでもなんでも展」では、力作ぞろいの展示部門・歌、踊り、演奏と多種の演技を楽しめる演説部門・食欲をそそる模擬店部門が皆様のお越しをお待ちしています。



吉岡氏が会員のサークル「さつきひろば」の模擬店

「だれでもなんでも展」と同時開催の公民館主催事業「平和のとき」を開催します。

「平和のとき」絵本読み聞かせについて 山根 弓子

福生お話ボランティアグループ「ポケット☆ポケット」に参加しています。普段は図書館や児童館で朗読、絵本の読み聞かせやお話等をしています。

5年前個人参加で「だれでもなんでも展」の演説で子ども向けにお話をしました。

その次の年に当時の職員さんから「夏だけでなくいろいろな時に平和について考えてもらえるように、だれでもなんでも展のなかにそういった内容の話を一つ入れてもらえませんか」と言われました。私も父が戦争に行っているいろいろな話を聞いたこともあるので共感しました。そこで図書館にある紙しばいや絵本など、戦争や平和について書かれた物を読みました。

3年前に大型絵本の「かわいそうなぞう」を読んだ時、多くのお客様が泣いて下さり、私も思わず涙ぐみ泣きながら読みました。それからは毎年「かわいそうなぞう」を続けています。3年前からはもう一人、岸野愛子さんが「えんぴつびな」の絵本と他の絵本の読み聞かせで参加して下さいます。今年もどうぞお出で下さい。



昨年の「平和のとき」

「だれでもなんでも展」に、昨年から盆栽の作品を出品していただいている細淵さんから盆栽の見方を教えていただきました。福生市では文化祭などで盆栽を飾るときには、細淵さんからお借りしています。細淵さんは、盆栽のサークルをつくりたいと考えています。

■盆栽の見方 細淵 謙蔵

盆栽は四季のある日本の風土にはぐくまれた樹々の一年のいとなみを、自然の風景を、盆上に映しだし手元で楽しむのが盆栽です。樹形には株立ち、直幹、寄せ植え、懸崖、模様木、石付き、文人木などの仕立て方がされています。盆栽は鉢という限られたスペースの器に入れているので水やりは大切な要素です。次に肥料と病害虫の防除や樹木の成長にしたがって徒長枝の選定、整姿が大切な作業です。

盆栽を鑑賞する上で重要なポイントがあります。根が四方八方に張り出して、安定感と力強さがあること、幹の立ちあがり素直で上に行くほど自然に細くなっていること、枝配り、幹から出ている枝がバランスよく配置されていることが重要です。

また鉢との調和も鑑賞するうえで重要なポイントです。盆栽鉢には色々な種類があり、盆栽にもっともあった鉢を選ぶのも大切な要素です。これらを参考に盆栽を鑑賞していただければ幸いです。

昨年の展示

